

咽喉頭癌患者の就労や生命に関する予後予測

愛知県がんセンター中央病院

頭頸部外科 医長 鈴木秀典

愛知県がんセンター中央病院

看護部 看護師 岩井美世子

愛知県がんセンター中央病院

地域医療連携・相談支援センター室長補佐 船崎初美

1. 研究の背景・目的

咽喉頭癌患者に関する臨床研究は、主にこれまでいわゆる5年生存率などの治療成績や診断が重視されてきた。また、抗がん剤の開発や放射線治療の発展により顔貌や声帯温存などの臓器温存や機能温存治療が研究し普及されてきた。さらにTNM分類をはじめとする予後予測因子から画像情報としてのPET/CTなどの生命予後等の予後予測に関する研究が行われてきた。

我々も咽喉頭癌患者に関する再発形式や生存予後についての予後予測に関する研究（文献1-3）や癌治療時の質に関する研究として頭頸部癌患者の術後感染や経口摂取等について国際英文誌に報告してきた。（文献4、5）

現在まで咽喉頭癌患者の生命予後や機能温存予後向上に関する臨床研究は、発展・開発され向上してきた。しかしながら就労といった社会との関わりへの臨床研究はほとんどされておらず、本研究の課題名である「咽喉頭癌患者の就労や生命に関する予後予測」の必要性和独創性を着想した。また、重点的に取り組む課題の「働く世代へのがん対策の充実」というがん対策推進基本計画の基礎となる情報となり今後のがん診療や対策へ貢献しうる研究であることが目的と意義があると考えた。

さらに本研究は、医師、看護師、ソーシャルワーカーらの多職種による共同研究であり、医学、看護学、さらに社会福祉学への今後へ発展の期待できる情報がえられる研究と考えた。

2. 研究の対象ならびに方法

本研究は、「画像情報や社会背景による頭頸部癌患者の就労や生命に関する予後予測の研究」の課題名にて平成28年7月22日に愛知県がんセンター中央病院倫理委員会に承認された。また愛知県がんセンター中央病院ホームページにてオプトアウトが実施されている。機能予後や生命予後は既に公開している手法で評価し、就労については、保険加入状況等を検討する。評価項目は、1) 基本的身体情報、2) 社会背景、3) 活動度、4) 癌の部位や病期、5) 治療法、6) 生命や機能、さらに就労などの転帰を主要な評価項目とし、情報を収集した。

3. 研究結果

第29回日本頭頸部外科学会総会にて「口腔扁平上皮癌におけるFDG-PET/CTによるリンパ節転移や節外進展の診断能」の演題名にて生命予後予測や癌の病期診断の予測能について口演発表した。対象は患者28名を対象とした。生命予後や機能予後、さらに追加治療の適否に関わると考えられる病理学的リンパ節転移や病理学的リンパ節節外進展について術前画像情報であるFDG-PET/CTにてどこまで予測可能か検討した。Receiver operating Characteristic curve analysisを実施し、FDG-PET/CTによる糖代謝集積値により病理学的リンパ節転移や病理学的リンパ節転移が有意に予測可能な結果を得た。

考察

病理学的リンパ節転移や病理学的リンパ節転移は、癌患者の生命予後や機能予後、さらに追加治療の適否に重要な情報であるが、治療前情報でFDG-PET/CTからの糖代謝集積値での予測可能という結果は、今後のがん治療において有力な予後予測因子になり得ると考えた。

第29回日本頭頸部外科学会総会にて口演発表することができ「頭頸部癌患者の就労や生命に関する予後予測に関する研究」の独創性と必要性をあらためて実感した。また、「働く世代へのがん対策の充実」の基礎となる情報となり今後のがん対策推進基本計画におけるがん診療と対策において影響を与えうる研究として重点的に取り組む課題であると考え、アンケートによる調査による研究が必要と考えた。

4. 文献

1. Treatment package time predicts cancer-specific survival and distant metastasis in laryngeal cancer. *Oncol Lett.* 2019, 17: 1384-1390. Suzuki H, Terada H, Hanai N, et al.
2. Primary Tumor Size Predicts Distant Metastasis of Mucosal Malignant Melanoma in Head and Neck. *Anticancer Res.* 2018; 38: 6485-6490. Suzuki H, Takano G, Hanai N, et al.
3. Lymph node density in papillary thyroid carcinoma is a prognostic factor after adjusting for pathological stage. *Oncotarget*2018; 9:26670-26678. Suzuki H, Koide Y, Hanai N, et al.
4. Complication and surgical site infection for salvage surgery in head and neck cancer after chemoradiotherapy and bioradiotherapy. *Auris Nasus Larynx*, 2017, 44(5): 596-601.
5. Prediction of decannulation, oral intake recovery, overall survival and lung metastasis following oral malignant tumor resection and reconstruction. *Oncol Lett.* 2018; 15:2686-2694.